

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	424 狂犬病予防経費	会計	01	一般会計
		款	04	衛生費
		項	01	保健衛生費
基本 施策	14 感染症などの流行、拡大を防ぎ、食の安全を確保する	目	01	保健衛生総務費
		細目	239	保健衛生事務経費
		細々目	03	狂犬病予防経費
行革大綱の重点事項番号		603000		
担当部課	コード	担当者氏名	連絡先	
	名称	島ヶ原支所住民福祉課	葛原 正貴	59 - 2109 (内線)

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	生後91日以上経過した犬の飼い主	※対象件数
成果(どうする)	狂犬病を予防し、住民被害の未然防止のため。	
根拠法令・要綱等	狂犬病予防法	
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
H22 事業内容	狂犬病予防法に定める業務 障害登録業務、狂犬病予防集合注射の実施、野犬等の捕獲・留置業務の協力	
社会情勢 の変化等	集合注射の頭数は減っているが、動物病院での接種が増えている。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
狂犬病予防集合注射	回		目標	1	目標	1
			実績	1	実績	1
			目標		目標	
			実績		実績	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
登録済畜犬予防注射接種率		受診率から適切な予防啓発ができているか推測する。	%	目標	70	目標	70
				実績	73	実績	70
				目標		目標	
				実績		実績	

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの 財源 内訳	国庫支出金	11	19	21	30
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	11	19	21	30
事業投入人件費(B)		0.2人	0.2人	0.2人	0人
フルコスト(A)+(B)		1,451	1,459	1,461	30

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)	
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	○	
	個人の方だけでは対応し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業		
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
有効性	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
	民間のサービスだけでは地域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
達成度	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。		
効率性	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○	
	サービス水準や対象を見直す余地がある。		
	当初設定した計画を	100%	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無	無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】		
昨年度の取組状況	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。		
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。		
	【事業名】		
	受益者負担を求めることができる事業である。	○	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○	
コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。			

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況	
改善策	23年度から防災行政無線放送を通じ未登録の飼い主に対する啓発と予防注射接種の周知に努める。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の取組状況	防災無線での啓発により、集合注射を効率的に実施できた。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	田槇 公博
【方向性】	現状維持
【理由】	
事業の方向性	畜犬の登録管理と啓発事業、狂犬病予防事業を適切に実施できている。
現時点における課題、その他	集合注射について、支所での人員が減少しており実施に際して厳しいものがあるが、要望もあることから年に1回は開催している。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	飼育マナーに対する苦情や予防注射接種率が下降傾向にあることから、飼い主の飼育マナーの啓発をより進める必要がある。